

令和4年度地域運動部活動推進事業

I 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究	朝日町教育委員会
---------------------------	----------

●現状・課題

近年、学校部活動を取り巻く環境が厳しさを増しており、生徒の減少に伴う部活動数の減少、学校の縮小化に伴う教員の負担増加、さらに教員の人事異動により、生徒にとって望ましい指導を継続して受けられないといった多くの課題がある。

●実践研究校・競技

朝日町立朝日中学校

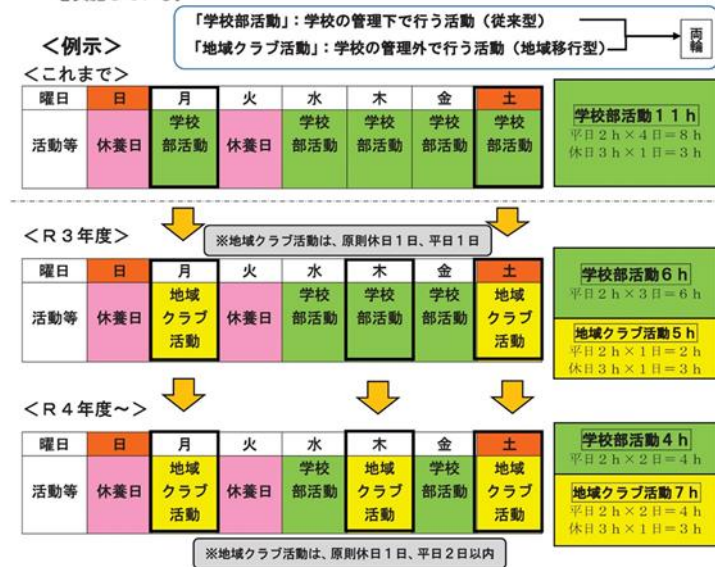
実施競技 【運動系】バスケットボール 柔道 陸上競技 卓球 剣道 ソフトテニス バレーボール
【文化系】吹奏楽 計 8クラブ活動

●実践内容

- 令和3年4月から、学校部活動の一部を地域クラブ活動へ移行。
- 週に平日1～2回(2時間程度)、休日1回(3時間程度)の実施。
- 上記以外の日は従来通り学校部活動として実施。
- 地域クラブ活動の指導者は原則「部活動指導員」「スポーツエキスパート」「競技協会員」「外部指導者」であり、従来より学校部活動指導に関わっていた方々。

朝日町型部活動コミュニティクラブについて

◆朝日中学校の「学校部活動」の一部を段階的に「地域クラブ活動」に移行する取組を実施している。



朝日町型部活動コミュニティクラブ 活動状況(R4.4月～R4.12月)

クラブ名	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			計		
	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計			
卓球	3	3	6	3	3	6	3	0	3	5	4	9	4	0	4	6	1	7	4	1	5	3	1	4	5	1	6	36	14	50
柔道	6	3	9	6	2	8	6	1	7	5	1	6	4	3	7	7	2	9	5	1	6	6	1	7	7	2	9	52	16	68
陸上競技	4	4	8	0	4	4	4	2	6	5	2	7	3	0	3	3	2	5	4	2	6	2	2	4	3	3	6	23	16	39
バスケ	2	3	5	3	3	6	6	1	7	8	6	14	7	2	9	10	7	17	6	4	10	4	1	5	7	1	8	53	28	81
剣道	4	3	7	2	4	6	3	2	5	4	4	8	4	1	5	4	2	6	12	2	14	4	2	6	3	3	6	40	23	63
テニス	8	4	12	7	6	13	5	1	6	9	4	13	8	3	11	7	4	11	7	2	9	6	3	9	7	3	10	64	30	94
バレー	6	3	9	6	2	8	5	0	5	8	0	8	5	0	5	8	3	11	6	1	7	3	0	3	5	1	6	55	11	66
吹奏楽	1	8	9	0	5	5	1	2	3	1	3	4	2	4	6	0	7	7	0	6	6	2	4	6	1	5	6	5	35	40

朝日町型部活動コミュニティクラブ R4年度 年間スケジュール

月	日	予定	備考
4		R4年度コミュニティクラブ実施	
	27	朝日町型コミュニティクラブ第1回実行委員会	スケジュール、運営方法等
6	14	地域クラブ指導者、学校部活動顧問、町教委との全体調整会議	活動計画打ち合わせ、意見交換等
10	5	地域クラブ指導者、学校部活動顧問、町教委との全体調整会議	半期の振り返り、意見交換
	17	AED取り扱い研修	
2		地域クラブ指導者、学校部活動顧問、町教委との全体調整会議(予定)	結果報告と運営・成果の検証、次年度計画等
3		朝日町型コミュニティクラブ第3回実行委員会(予定)	次年度以降の運営方針について検討
		中学校保護者会説明(予定)	次年度運営についての方針(案)説明
※学校部活動顧問との連絡調整打ち合わせ(地域クラブごと月1回)			

●参加者の声

- ・地域人材の活用により、専門性の高い指導が受けられるようになり、生徒の活動意欲が高まると共に技術及び競技力の向上等が図られたこと(生徒、保護者意見)
- ・教員がこれまで「学校部活動」指導にあてていた放課後の時間を 教材研究や採点、生徒指導や進路指導等さまざまな業務にあてられるようになったこと。→教員の在校時間が削減され、身体的・精神的な負担が減少したこと(教師意見)
- ・「学校部活動」の指導者(部活動指導員・スポーツエキスパート等が、「地域クラブ活動」の指導を行っているため、指導の一貫性が担保されていること(生徒、教師、指導者意見)

●成果

- ・地域材の活用により、専門性の高い指導が受けられるようになり、生徒の活動意欲が高まると共に技術及び競技力の向上等が図られたこと。
- ・小学校でのスポーツ少年団等から中学校の部活動へと計画的・継続的な一貫した指導が受けられるようになったこと。
- ・「学校部活動」の指導者(部活動指導員・スポーツエキスパート等が、「地域クラブ活動」の指導を行っているため、指導の一貫性が担保されていること。
- ・教員がこれまで「学校部活動」指導にあてていた放課後の時間を教材研究や採点、生徒指導や進路指導等さまざまな業務にあてられるようになったこと。
→教員の在校時間が削減され、身体的・精神的な負担が減少したこと。

●課題

- ・指導者の確保や育成
指導服務(部活動ガイドライン)の遵守、研修の実施方法
- ・指導方針や情報の共有の在り方
Teamsでの運用。PCがないと確認できない。
効率的な情報の共有手法の検討が必要
- ・生徒の安全管理の徹底
生徒の安全管理についての緊急対応等の徹底が必要
- ・費用負担のあり方
次年度以降の事業補助等、受益者負担金での運用の検討

●課題解決に向けて

- ・情報共有の連携強化が必要なことから、地域協働本部にて、部活動支援部会の推進支援員(コーディネーター)による学校、指導者、行政との情報共有強化を図り、また学校側の業務の軽減を図り、地域クラブ活動の円滑な推進を図る。
- ・2年間の実証事業においては、地域指導者には、多大な協力・支援を得ながら実施することができた。今後は、指導者の謝金については、是正することとし、持続可能な実施を進めるため、受益者負担について検討。
- ・指導者の指導服務(部活動ガイドライン)や生徒の安全管理に関する研修の実施や積極的参加について一層の推進を図る。

●今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

- ・情報共有の連携強化が必要なことから、地域協働本部にて、部活動支援部会の推進支援員(コーディネーター)による学校、指導者、行政との情報共有強化を図り、また学校側の業務の軽減を図り、地域クラブ活動の円滑な推進を図る。

【受け皿団体の確保方策】

- ・その他の地域クラブ活動や受け皿の必要性について検証する。

【指導者の確保方策】

- ・持続可能なクラブ運営を実施していくために、クラブ活動のPRと指導者の育成について、町体育協会や各競技協会と連携を強化する。

【困窮世帯への支援方策】

- ・運営にあたり、参加費負担が必要となった場合、困窮世帯に対する支援できる体制を構築していく。

【地域移行の自走化に向けた方策】

- ・運営費の確保については、受益者負担について、検討を行っていく。

【地域特有の課題への対応策】

- ・町内中学校のみでの部活動自体の持続についても、今後、検討が必要となることから、生徒が選択が制限されることのない部活動及び地域クラブ活動の持続可能な運営についての検討を行う。